

子どもの本だな 89

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

1ねんに 365 のたんじょう日プレゼントを  
もらったベンジャミンのおはなし

ジュディ・バレット さく ロン・バレット え  
まつおか きょうこ やく (偕成社)

4月6日はベンジャミンの誕生日です。パーティーに友だちがプレゼントをもってきてくれました。リボンをほどき、紙をはがし、中に何があるかを見るときにわくわくする気持ち！ベンジャミンは包みを開けるのが大好きでした。でも、次にプレゼントがもらえるのは365日も先です。ベンジャミンは、もらったプレゼントを包みなおすことを思いつきました。次の朝、それが何か知らないことにして包みを開けるのです。ベンジャミンは何日も余分にプレゼントを楽しんだあと、家にある枕やテーブルなどを次々に包んで自分へのプレゼントにしました。366日目の4月6日に友だちがやってきたとき、ベンジャミンが包んでいたのは…。

包みの中からお気に入りのズボンつりが出てきて喜んだり、浴槽やテレビを包んでしまって困っているベンジャミンの様子がクリーム色の背景に細かい線画でユーモラスに描かれています。読んでもらえば4歳から。(秋澤)

世界のむかしばなし

瀬田 貞二 訳 太田 大八 絵 (のら書店)

ある暮れ方、旅人が立派な百姓屋にたどりつき、まきを割っていたおじいさんに一晩の宿を頼みました。するとおじいさんは「わしはこの家のおやじでない、台所へ行って、わしのおやじどのに話してごらん」と言いました。台所にいたのはもっと年とったおじいさん。でもこの人もこの家の主ではなく、旅人はまた奥へ。テーブルにはぶるぶるふるえるおじいさん、深いイスにはからだがちぢまったおじいさん、ベッドには目ばかりのおじいさん、ゆりかごには赤ん坊くらいのおじいさん…。最後にやっと壁にかけた角の中つにいるこの家の主に許しを得て、とめてもらうことになりました。(「七人さきのおやじさま」)

子どもの文学に深い知識を持つ著者が世界の昔話の中から14編を選び訳したもの。新鮮で活発な想像力を満たしてくれる、短くて愉快なやさしいお話がおさめられています。読んでもらえば5歳から楽しめます。(西村)

4月	5月	4・5月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
8日	13日	<b>塚森</b> 地域内 10:30~ 10:50	<b>沖代</b> 地域内 11:00~ 11:20	<b>福地(三反長)</b> 地域内 14:30~ 14:50	<b>米田</b> 公会堂 15:00~ 15:20	<b>竹広南</b> 公民館 15:30~15:50
15日	20日			<b>原池団地</b> 公民館 15:00~ 15:20	<b>山田</b> 掲示板前 15:30~ 15:50	<b>原</b> 太田東地区 農村交流センター 16:00~16:20
22日	27日	<b>広坂</b> 公民館 10:30~ 10:50	<b>上太田</b> 公民館 11:00~ 11:20		<b>太子 ニュータウン</b> 公民館 15:30~ 15:50	<b>吉福</b> 公民館 16:00~16:20

**<お知らせ>**  
**一日図書館員を募集します**

本の整理、貸出や分類など図書館の仕事を体験してみませんか？

- ・日時：4月25日(日)  
9:15~16:00
- ・対象：小学6年生~高校3年生
- ・定員：3名  
(申込多数の場合は抽選)
- ・申込方法：本人来館の上、窓口で申し込み
- ・申込期限：4月18日(日)

『 古代エジプト人の 24 時間 よみがえる 3500 年前の暮らし 』 ドナルド・P・ライアン 著

市川 恵里 訳 河出書房新社 236 頁 2020 年 12 月刊 2,300 円 (請求記号) 242

本書の舞台は、古代エジプトの首都テーベ。紀元前1414年頃のある1日の0時から24時までを1時間ずつに区切り、王や神官、農夫や木工職人など、様々な身分、職業の24人の生活をもとに物語の形でつないでいく。

エジプト時間の夜第9時(2:00~3:00)、ミイラ職人ハブネセプが、内臓を取り出した遺体に白い粉をふりかけている。これは砂漠の干上がった湖から取れるナトロンという鉱物で、脱水作用がある。遺体を70日程かけて乾燥させ、亜麻布で巻き包み、仮面をかぶせれば完了である。遺体処理は蔑視されるが、肉体の死後も魂が宿る場所をつくる仕事に、ハブネセプは誇りを持っている。

昼の第3時(8:00~9:00)、漁師マヌは、ナイル川の川辺で友人親子と小舟作りを始めた。大量のパピルスの茎を切り出し、その繊維で縄を作り、茎の束の両端を縄で縛りあげて舟に仕上げられるまで、午前中いっぱいばかり作業だ。ナイル川は、毎年氾濫して肥沃な土を運び、農作物を豊かに実らせるだけでなく、魚も豊富に獲れ、日干し煉瓦の材料となる泥を提供してくれる。

昼の第10時(15:00~16:00)、イパイという嫌われ者の監督官の葬儀が始まった。葬列には、泣き叫び、悲しむふりをする「泣き女」がついて歩く。イパイが生前から準備していた墓の壁には、理想的な死後の暮らしが絵と碑文で描かれている。副葬品の中には、冥界への旅に耐え、神の審判を乗り切る方法を指示した「死者の書」もある。泣き女の目から語られる葬儀の描写から、自分も参列しているかのように感じ、エジプト人の死生観まで想像することができる。

後の解説にあるように、人類が残してきた歴史の記録は「支配者側・勝者側のもの」ではあるが、古代エジプトに関しては、支配者以外の庶民の日常を知るために、文字の存在が大きく貢献している。書記が大きな役割を果たし「記録すること」を重要視していた文明といえる。ひとつひとつのエピソードが短く、盛りだくさんの感はないが、人々の暮らしや心情を体験し、古代エジプトの世界が立体的に立ち上がり、興味は広がる。(池田)

＜ 紙バッグ工作教室 ＞

・日時：4月10日(土)・24日(土)

①14:30 ②15:00 ③15:30

- ・場所：太子町立図書館 児童室
  - ・対象：小学生以上(要申込)
  - ・定員：各回1組 ※1組3名まで
  - ・申込：太子町立図書館
- ※定員になり次第締め切ります。

＜おはなしの時間・絵本の時間＞

【お話の時間】 毎週土曜日

・小さい人(4才~小学2年) 11:00~

・大きい人(小学3年~中学3年) 11:30~

【絵本の時間】 毎週木曜日 11:00~

3歳までのお子さんと保護者対象

4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	×	7	8	9	10
11	12	×	14	15	16	17
18	19	×	21	22	23	24
25	26	×	28	29	×	30

5月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	×	5	×	×	8
9	10	×	12	13	14	15
16	17	×	19	20	21	22
23	24	×	26	27	28	29
30	×					

\* ×印は休館日(4/30、5/6、5/7は祝日の振替、5/31は館内整理日)

\* 開館時間は10:00~18:00、金曜日は20:00まで開館

地下水

▼新しいドアフォンが気に入らない、とSさん。新築の家についてドアフォンは、留守であっても携帯電話とつながり、来訪者に対応ができるらしいが、そのようにしてまでつながる必要があるのか、と。それそうだ。機械に疎く、スマホはメールと通話だけ、ドアフォンが鳴っても居留守をきめこむ私には、どういった状況で役立つ機能なのか想像もできない。どこにいても連絡がつくことに、囚われた感覚をもつSさんの不満にうなずいたものの、なんで呼出し音だけの機械にしなかったんだ、と首をひねる。

▼土筆で毛糸を染め、編んだセーターがある。20年以上前のもので、型も古く、着ることもない。ほどこいて編み直す技術もないので仕舞い込んだまま。寒さが緩むころ、草木染の本を手にして春には布を染めて、刺繍を...と心が弾んだ。楽しみにしていた土筆やタンポポ、ヨモギの時期になっても、外に出ず、ぼんやりとしている。わくわくする気持ちがなぜ薄れるのだろう。身軽に動けず、休日はただぼーっとしたいと思う自分がなにに縛られているかを振り返ってみる。あれやこれや理由を挙げたところで、結局は自身にはね返ってくる。ため息を深呼吸に変え、周囲が目をもくくらしいに自分を染め直してみたいものだ。(竹内)